

第24回

# ヘブル語講座アウカルト

## 「ラーハム」

— あわれむ —

「わたしは恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ」  
(出エジプト記33・19)

## ラーハム


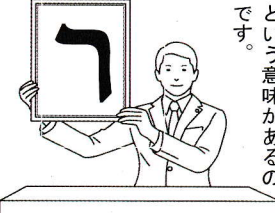

●「ラーハム」の初出箇所は出エジプト記33章19節です。「わたしは恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ」とあります。後半の「あわれむ」が「ラーハム」です。ここは同義的パラレルリズムとなっており、「あわれむ」の「ラーハム」と、「恵む」を意味する「ハーナン」とは同義です。使徒パウロがこの33章19節をローマ書9章15節で引用しており、そこでは「わたしはあわれもうと思う者をあわれみ、いつくしもうと思う者をいつくしむ」となっています。「あわれむ、恵む、いつくしむ」と訳される「ラーハム」と「ハーナン」は、いずれも神の深い心情を表す重要な語彙となっています。一つの原語に対して新改訳と新共同訳とでは訳が異なっていますが、意味としては同義です。

●二人の盲人の「あわれんでください」  
この呼びに対して、イエシユアは「深くあわれんだ」とあります(マタイ20・34)。ギリシア語は「スプラランクニゾマイ」、ヘブル語訳は「ラーハム」です。この語彙があるところでは単なる同情だけではなく、必ず行動が伴っています(「同情+行動」結果)。二人の盲人の叫びに対して、イエシユアが「深くあわれんで」、「彼らの目に触れられた」ことで、彼らは「見えるようになった」のです。福音書には生まれつきの盲人が多く登場しますが、それらは神の事柄に目が覆われている者のたとえです。生まれつきの盲人の目が見えるようになるという奇蹟こそ「ラーハム」が意味することであり、メシアにしかできないいわざなです。「あわれんでください」ということは主はとても敏感です。なぜならそれは、自分には何も

できないことを霊のうちで真に悟らされた者が主に懇願する重要なことばだからです。終わりの日に立ち上がったくる「イスラエルの残りの者を開眼に至らせる」「恵みと嘆願の霊」(ゼカ12・10)に、「ラーハム」の同義語「ハーナン」の名詞が二重に重ねられています。

●パウロも神の「ラーハム」に与った一人です。彼は「自分は見えない」と考えていたパリサイ人の一人でしたが、イエシユアが天からの光によって彼を照らし、**霊の目を開かせました**。その際、彼のもとに遣わされたのが、ダマスコに住む主の弟子の一人「アナニヤ」(新改訳2017は「アナニア」)でした。「アナニヤ」のヘブル語表記は「ハーナン」です。アナニヤの按手によってパウロは、目から鱗のような物が落ちる」という**開眼の恵み**を与えられ、洗礼を受けています。「王なる祭司」はすべて神のあわれみにふれた者です。私たち祭司は、日々霊の開眼を経験しながら、人に対して「あわれみ(ラーハム)」を示す者となるのです。御国(メシア王国)は、そのような者たちが集結する所なのです。(銘形秀則)

## はじめに神は…

 <p>Resh</p> <p>レシユは「頭」を象った文字です。</p>	 <p>はじめに人は「頭」で考え、それから行動します。</p>
 <p>つまりレシユには「新しくはじめる」という意味があるのです。</p>	 <p>「見よ、わたしはすべてを新しくする。」 黙示録 21:5</p>

(作・神田満)

### 編集後記 (史料・機関誌委員会から)

「お金で解決出来る事なら…」  
「それは、人の命に関わるような事では無い! よね」  
「何があっても、行き先は決まってるから、心配するなよ」

人生を振り替える時、その岐路でのひと言は、その時々：励まし、慰め、力を受けて前進できた事は、主の確かな愛の支えと導きだったと感謝が溢れます。

新しく与えられたこの年、日々生きて共に働かれる神様の「計画」とお導きを見上げ、志しを共にする兄弟姉妹と共に、喜んで前進する者で在りたいと願い、祈りつつ歩み始めたいと思います。ただ、主の栄光と成りますように。  
(K・N)

発行者

宗教法人 日本神の教会連盟

発行者

東京都練馬区羽沢一丁目一九

編集者

練馬神の教会内

発行者

藤田 信

編集者

沼 慎一

福岡県筑紫野市二日市北一丁目一八六

日本神の教会連盟 二日市栄光キリスト教会

電話&FAX 〇九二(九二四)五〇九八